

に、前述の地域を感じさせる工夫に加えて、観光列車がゆとりのある空間を提供することで、観光客は旅行の余韻を残したまま、ゆったりとくつろぐことができるだろう。

以上のように、観光客にとって観光列車は観光における足となるだけでなく、その旅をさらに実りのあるものとして享受できる、旅の一つの軸になり得る存在であると言える。

(3年 肥田)

5

提言

1.理想的な観光列車とは

今日、列車は単なる移動手段ではなく、それ自体が高い付加価値を持った観光資源としても機能している。JR九州の豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」は3泊4日で一人当たり最高170万円とかなりの高価格となっているにも関わらず、現在も抽選倍率4倍と非常に高い人気を誇る。ななつ星の例は極端かもしれないが、実際に近年の鉄道各社は豪華な設備や質の高いサービスを売りにした観光列車を多く登場させている。例えば、JR東日本は全座席がグリーン車またはさらにグレードの高いプレミアムグリーン車で構成される観光特急列車「サフィール踊り子」を、東武鉄道は展望室やラウンジなど豪華な設備を備えた特急列車「スペーシアX」をデビューさせた。受け入れる観光客の人数を抑えてサービスの質を向上させることで、観光客の満足度を上げると同時に、価格をそれに見合った水準に引き上げることで単価の向上も実現できる。このような戦略は日本に根強い低価格ビジネスからの脱却を促進し、労働者の待遇改善や生産性の向上を期待できる。今日において、観光産業は「量より質」を追求することで、受け入れ側の負担を軽減し、より大きな経済効果を生むことができるだろう。また、最近の傾向として一つの地域の魅力をじっくり味わいたいというニーズが増加している。そのため、特に地方路線の観光列車には地域の特色を盛り込むというアプローチも重要になってくる。例えば、地域の特産品を取り入れた内装、その地域の名物を使用した食事の提供、観光情報の案内などが挙げられる。特に外国人観光客は地域の住民との交流を楽しむ人も多く、観光列車が沿線の地域と一体となって観光を盛り上げていく姿勢はますます重要になっていくだろう。

また、最近では観光においても環境への配慮が求められており、その点でも列車が果たせる役割は大きい。環境省によると、鉄道が排出する単位輸送量(人キロベース)あたりの二酸化炭素は、自家用乗用車の約9分の1、航空の6分の1に過ぎないというデータもある。観光で飛行機を使うかわりに鉄道を利用すれば、環境負荷をかなりの程度抑えることができる。実際に、環境への配慮で先進的なヨーロッパでは環境負荷の低い夜行列車が再び注目されているという。日経新聞によると、スウェーデンの長距離国際列車の運行会社スネルトゲットがスウェーデンのマルメからドイツのベルリンをつなぐ路線を、ストックホルムーベルリン間の夜行路線に転換したところ、乗客数は過去の6倍の水準まで増加したという例もある。確かに飛行機を利用した方が目的地に圧倒的に早く着くことができるのは事実だが、ビジネス利用客と異なり観光客は必ずしもそこまで急いで行くことを求めているとは限らない。現代の移動は何かと速達性が重視されるが、「ゆっくり行く」需要も確かに存在するのではないだろう

か。より長い所要時間やより高額な料金が発生するとしても、それに見合う価値を提供することができれば、需要は生まれるのではないかと考える。日本全国に張り巡らされた在来線のネットワークを活用し、夜行観光寝台列車を運行する余地があるのではないだろうか。このような列車によって全国の地方都市や観光地が結ばれば、新幹線駅や空港などが無い地域にも観光客を呼び込む足掛かりになるだろう。もちろん実現に向けて課題は山積しているだろうが、観光業の振興だけでなく日本社会全体に好ましい効果が期待できるのではないだろうか。

(1年 中川)

6

あしがき

1.バックナンバーの御案内

この度は当会研究誌をお読みいただきありがとうございます。

当会は毎年一橋祭に向けてテーマを設けた研究誌を発行しています。本年度は印刷したものを一橋祭で展示するほか、インターネット上でも公開を行いました。過年度の研究誌に関しては、一部を当会のホームページで全文を公開しています。

■ホームページで全文公開されている研究誌（2023年11月現在）

1993年「整備新幹線構想を問う～その実像と虚像～」

1994年「検証国鉄改革」

1995年「地方分権化時代の鉄道整備」

1996年「岐路にたつ地方公共交通」

1997年「パークアンドライド」

1998年「地域開発と交通整備」

1999年「利用しやすい交通機関を考える」

2000年「合理化とサービス」

2001年「モーダルシフト」

2002年「通学と交通」

2003年「鉄道における情報マネジメント」

2004年「鉄道事業に対する投資のあり方」

2005年「第三セクター鉄道と地域の未来」

2006年「人口動向の変化と都市鉄道」

2007年「鉄道事業におけるCSR」

2008年「都市間輸送ネットワーク」

2009年「鉄道貨物輸送の今」

2010年「『鉄道趣味』を旅する」

2011年「災害と鉄道」